

「江東エコリーダーの会」 発足に寄せて



江東えこっくる館長 荒田智康

～協働の関係を築いていきたい～

まずは、会の発足は、区としても実施してまいりました「エコリーダー養成講座」がひとつの大きな結実を結んだものとして誇れることであり、発足に向け、ご苦労された皆様方に心より敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、環境学習情報館「えこっくる江東」は、開館して2カ月を経過し、おかげさまで累計では4000人近くの皆様のご来館をいただいております。

オープン期間を終え、今後は環境学習をはじめとした環境保全に向けた活動を本格的に始動させてまいりたいと考えており、また、その活動においては区民、NPO、事業者、学校などの皆様との協働を基本として実施していく予定にしております。

「江東エコリーダーの会」はそうした今後の「えこっくる江東」の活動のなかで大きな役割を担っていただけるものと期待させていただいております。

本施設も貴会も歩み始めたばかりではありますが、今後の環境問題への取組みの中で文字どおり協働の関係を築いてまいりたいと願っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「えこっくる江東」人事

「えこっくる江東」は4月から8名の職員で運営されます。

「えこっくる江東」は平成18年2月12日開館より継続して勤務している職員5名と平成18年4月1日付き転入された新任の職員3名、計8名の職員で運営されています。

荒田智康（館長）、山本博子（管理係長）、細谷敬史、磯谷美栄、吉田絵美、そして新任の下和田悟（教育委員会学務課より転入）、稲葉一夫、篠宮健次郎（両氏とも清掃事務所技能長にて退職後再任用）の各氏、計8名の職員の方々です。

所在地：〒135-0052 江東区潮見1丁目29番7号

えこっくる江東内

発行・編集：江東エコリーダーの会

E-mail: info@koto.eco.to

江東エコリーダーの会 2007年度予定表

4月	●活動計画の作成
5月	●活動計画の作成 ●26日(土) みどりのカーテン苗植えイベント
6月	●2日(土) 江東区の河川をみて体験・学習するツアー ●9、10日(土、日) 環境フェア参加 ●16日(土) 定例会 ●23日(土) 隅田川クリーン大作戦
7月	●15日エコ検定 ●21日(土) 定例会
8月	●「エコキッズ」サポート ●18日(土) 定例会
9月	●納涼会 ●15日(土) 定例会
10月	●20日(土) 定例会
11月	●17日(土) 定例会
12月	●忘年会 ●15(土) 定例会
1月	●19(土) 定例会
2月	●16(土) 定例会
3月	●15(土) 定例会

編集後記

ワンガリー・マータイさんの講演を生で聴くことができた。

2004年のノーベル平和賞受賞後、毎日新聞社による日本への招聘の時に知った一言の言葉「MOTTAINAI」が環境保全のキーワード①Reduce(抑制)②Reuse(再使用)③Recycle(再生)、3Rに繋がることに気がついた。それが縁で日本の「もったいない運動」に委ねる(commit)ことになったという。

地球温暖化の脅威、マータイさんにとって身近な山「キリマンジャロ」山頂の氷雪も小さくなりつつあるという。(稲垣)

第一号の会員広報誌が完成できいよいよスタートした、この広報誌は会員皆様の積極的な実行力と思考力を大いに掲載して参りたいと念願しております、どうぞ、振るってご健筆をおくって下さいます様心からお願い申し上げます。

(南)

江東エコリーダーの会

1

江東エコリーダー通信 2007年6月1日発行

本年4月、潮見1丁目に開館した環境学習情報館「えこっくる江東」を活動拠点にした新しい環境ボランティア団体「江東エコリーダーの会」が誕生しました。

これは、2001年から江東区環境清掃部環境対策課が毎年開催してきた「エコリーダー養成講座」修了生有志によるOB会が発展的に組織化されたもので修了生120名に呼びかけて結成されたもの。

2006年度受講生(6期)の修了式を待って「江東エコリーダーの会」創立総会が2007年3月3日、新館の「えこっくる江東」で開催され正式に発足しました。

初代会長にこれまでOB会で活躍してきた中瀬勝義氏が選出され就任しました。

江東エコリーダーの会スタートにあたって

～これからは私たちがお返しする番です～

長い間の懸案だった「江東エコリーダーの会」がいよいよスタートした。

エコリーダー養成講座卒業生が120名を超えるまでになったことと、潮見に素晴らしい環境学習情報館「えこっくる江東」が誕生したことがきっかけとなり、江東区とエコリーダー養成講座OB会が中心となり、半年近くの準備を続けてのスタートである。

新設「えこっくる江東」の展示の中では、江東ゴミ戦争が重要なポイントになっている。江東区は江戸時代から江戸名物の火事焼け残りの埋立の場であり、今の江東区のほとんどはある意味ではそんなゴミからできており、本当に「ゴミの町」と言える。

江戸時代以降も、都民のゴミや建設残土などの埋立用地として活躍してきた。昭和35年には江東区の地先に広がっていた東京湾のほとんどをその後の高度経済成長の中で埋立て、江東区は私の子ども時代に比較し、2倍以上の面積になっている。江東区の実績はゴミの御蔭とさえ言える。所得は倍増し、三種の神器も車までも買えることになった。

しかし、良いことばかりが続くわけではない。東京都民の安定した経済生活を求めて、東京湾を埋立てて、工場地帯を作り、生産性の低い農業から生産

会長 中瀬勝義



性の高い工業中心の日本を創ってきた。結果は必ずしも幸せではなく、隅田川や江東区内の内部河川・運河は真っ黒にどぶ川になってしまい「よい子は川で遊ばない」教育が進展し、川は区民から忘れられたものになってしまいました。水質・底質・騒音・振動・大気汚染・地球温暖化も……

そんな時代が続き、日本ではジャパン・アズ・ナンバーワンにまでなりましたが、残念ながらバブル崩壊で、その調整にもう20年も掛かっています。

そんな反省からか、江東区はエコリーダー養成講座を始め、我々が育ちました。これからは我々がそのお返しをする番になりました。

水彩都市江東のために、自分の小さい力を将来の子どもたちのために使いたいとおもいます。一人ひとりがエコライフを実践し、地球温暖化対策にも貢献したいとおもいます。何より、持続可能社会・江東をみんなの努力で創り上げたいと思います。エコライフを楽しみましょう！

グループ活動の紹介

みみずグループ

～堆肥作りに拘わる本格的な花壇づくり～

私達は、2004年度江東区エコリーダー養成講座で「食」をテーマにして自然環境の事を考え修了発表をしたメンバーです。終了後、メンバーが集まり再度環境グループとして「みみずグループ」を立ち上げました。

みみずグループに出来る温暖化防止は 何処から出来るのか？

身近な家庭から出る可燃性生ゴミの軽減と再利用を考え、無駄な生ゴミは出さない。出た生ゴミからEM有機微生物堆肥を作り、生ゴミ利用する。その堆肥を土に混ぜ豊かな土壌を作り、ミニ菜園で安全な野菜と花作りを楽しみながら土いじりを通して、ミニエコ広場を作り「生ゴミ大使」として呼びかけ運動をする。

身近な環境作りを地域の人達と共に、皆さんと楽しく土作りを通し交流の中から、環境に優しい事を考える会です。

みみずグループは昨年、本格的にグループを立ち上げてを始めました。

活動基地を探すにあたり、都立公園協会と江東区環境課のお力を借りて、木場公園ミドリアム裏手にあります花壇で鍬入れから始まり、石集め・草取りと荒地の花壇に土作りをすること枯れ葉堆肥・木炭・骨粉・コーヒー堆肥などなど。一年を通して、何とかイベントが出来るように成りました。

昨年は、エコリサイクルハウスでの「環境フェア」や8月には「花壇から見える大自然」をテーマに、子供達に、土を通して自然環境の大切さを伝えたり、区民祭り・さようならエコリサ祭りなど「生ゴミ大使」として活躍しました。

今年は2年目に入り、ゴミとなる枯れ葉で堆肥作りをしながら、花壇に入れる苗作り、また苗を一緒に育ててくれる「苗親」募集などして、それに「綺麗な花を咲かせ終わった植木鉢の土をゴミに出さず、リサイクルしてまた綺麗な花を咲かせましょう」と呼びかけ運動をして、早くも山田さんが、「苗親」に手を上げて戴き、大変嬉しいことでした。

これからも、花壇を通じて土の大切さと、土を作る為に大切な堆肥作り、「ゴミを出せばゴミ。リサイクルすれば資源」簡単な言葉ですが、身近な土から、ミミズのような小さな力で、温暖化防止と水辺の環境を考えて行動したいとおもいます。

リーダー 中村 政雄(4期)



みみずグループメンバー

「苗親」募集しています希望者は中村まで！

なえおや

Email:h36cha_28m@tea.ocn.ne.jp

TEL.03(3615)4228 中村 政雄

グリーンカーテングループ

～毛利小学校に「朝顔のグリーンカーテン」2基設置～

4月3日、4日両日、江東エコリーダー会の「グリーン・カーテン・グループ」(6期生)は江東区毛利小学校に於いて「朝顔グリーン・カーテン」設置の為に柵作りを行った。これはメンバーの山田政雄さんが「母校への恩返し」と同校山岸校長に申し入れし受け入れられたもの。

夏日がさす南側1階手洗場前の教室と2階職員室を朝顔の緑と花のカーテンで日差しを遮断し涼風を送る作戦。1階に5m60cm幅2階に5m12cm幅のプランターの設置工事が行われた。

建物に直接工事を行わない制約条件を守るための知恵と工夫が施されている箇所が2カ所。

①朝顔が3～4mの高さになることを考慮し、剪定作業がしやすいように朝顔の蔦を絡ませるシュロ縄を取り付けたポールが滑車で上下出来るようにした。

②暑さで苗床が蒸れないようにプランターを木製仕上げにした。

プランター材料は山田さんが現場サイズに合わせDIYショップで前もって自費購入しそれらを現場で組み立てたもの。今後も「土入れ」と「苗植」の作業が続く。平行的に自宅屋上では「苗づくり」が行われる。

設置作業には6期受講グループメンバーの谷口さん・福田さん・松崎さん・他、応援者として5期の稲垣さん・南さんが参加しました。作業途中、「お話が本当に実現したわ！ありがとうございます！成長が楽しみです」と山岸校長自ら入れたお茶とともに労いの言葉をいただいた。自然に話し合いの場となり、教育現場での貴重な交流の機会をもつことができた。

苗の成長を待って5月9日午後、朝顔の苗木植作業が行われた。



2階職員室ベランダに設置したプランター



苗作り(差し替え)

苗は苗床づくりから土壌づくりまで全てを山田リーダーが用意しました。今回は、気候の不順から苗の発芽までは特にご苦労があったとのこと。校長先生も教員の皆様とともに参加し、自ら如雨露(じょうろ)を持って水まきをされるなどにぎやかに作業が行われた。

今後は、時々観廻り、発育した蔓(つる)をシュロ縄にからませる作業が必要との事。

今回はグリーンカーテンメンバーの山田、谷口、福田、加藤、沼田、松崎、南

(敬称略)が参加した。

リーダー 山田政雄

(4月・5月の取材・広報 南)



苗木植え作業終了後の記念撮影



木場公園内堆肥作り



2階西側、南側にも有

「えこつくる江東」新館に「みどりのカーテン」設置
「エコリーダーの会」で提案(プロジェクトリーダー山田さん六期)して頂きました「えこつくる江東」の「みどりのカーテン」が事業計画として会が設置、観察することになりました。単管足場パイプによるフレーム組、園芸ネット、プランターによる「みどりのカーテン」です。五月二十四日資材購入、単管組み立て。五月二十六日に「みんなで苗植えをしましょう」のイベントを行いました。
堆肥は「えこつくる江東」の稲葉さんから、肥料はみみずグループの中村さんから頂き、みんなで土づくり、苗を植えました。
南面へチマ二十鉢と朝顔二十鉢、西面ひょうたん二十鉢、朝顔二十鉢を設置しました。これから水やり、観察が始まり、十月末まで調査します。ご協力をお願いします。

6月9日(土)10日(日)開催

「えこつくる江東」環境フェアに参加

「朝顔」の苗100鉢を準備しております。

「えこつくる江東」の館内と敷地内で六月九日(土)十日(日)の両日開催される「環境フェア」に「江東エコリーダーの会」も十日(日)に「参加する」。
「みどりのカーテン」の作り方とその効果についてパネルで紹介するとともに、ゴーヤーの実物も展示する。実際に「みどりのカーテン」を家庭で作ってもらう為に、クイズに答えられた方に苗をプレゼントいたします。